

TOPICS

地域防災計画を策定しました

地域防災計画の特徴

①想定する地震

市域には、柳ヶ瀬・関ヶ原断層帯と呼ばれる活断層帯が縦断しており、最大でマグニチュード8・2の地震が起こる可能性があることから、この地震が発生したときに備えた計画を策定することにしました。

市域は、かつて姉川地震（一九〇九年）で甚大な被害を受けており、地震対策は特に重要です。

②雪害対策の充実

余呉地域は特に冬季に大量の雪が降ることから特別豪雪地帯に指定されています。このため、雪害に備えて、除雪や雪処理などの対策を盛り込みました。

③原子力災害対策

原発立地自治体隣接市として、現時点の国の防災指針等による、予防対策・応急対策・事後対策について必要な措置を定めました。

間防炎危機管理課 ☎65516555

東日本大震災は、東北地方を中心としてかつてない被害をもたらしました。地震や台風等による災害は、私たちの生活に大きな被害と影響を与えることとなります。

本市では、広い市域で多岐にわたる災害等に対応し、被害を防止・軽減するために、新たに「長浜市地域防災計画」を策定しました。

今回は、その概要と災害想定・避難場所についてお知らせします。なお、原子力災害対策にかかる任意計画につきましては、現在策定中のため、策定後に改めてお知らせします。

災害に対して安心して暮らせるまちづくりには、市民・地域・企業・行政が協働して進める防災対策が不可欠となります。

地域防災計画では、現状と課題、市のまちづくりの方向性などをともに「市民とつくる災害に強いまち ながはま」を目標に掲げ、次の対策を推進することを防災ビジョンとしました。

防災ビジョン

①いのちを守る防災対策

人命の安全確保を最優先にした防災対策を計画し、事業を推進します。

②減災の考え方による効果的な防災対策

減災とは、災害時に発生する被害を最小化するための取り組みであり、あらかじめ被害の発生を想定したうえで、その被害を低減させようとする防災対策です。

最も重要な課題について限られた予算や資源を集中し、被害を最小限に抑える効果的な防災対策を推進します。

③自助・共助・公助の役割分担で防災対策

災害から市民の生命、身体及び財産を守ることは行政の最も重要な役割の一つですが、市民や企業の皆さんが平時より災害に対して備えを強化し、いったん災害が発生した場合には自分の身を守る

り、さらにはお互いが助け合うことは非常に重要です。

したがって、市民・企業が自らを災害から守る「自助」と地域社会が互いを助け合う「共助」、市をはじめとする行政による「公助」との適切な役割分担に基づき、防災対策を推進します。

この防災ビジョンを達成するため、8つの施策を重点的に取り組みます。

目標達成に向けた8つの施策

- ①要援護者等の避難・救護
- ②防災拠点・住宅等の耐震化
- ③自主防災組織の強化と組織化
- ④情報の提供・防災教育・訓練
- ⑤防災階層（自治会、連合自治会、支所、全域）ごとの防災整備
- ⑥防災拠点の整備と機能の充実
- ⑦地域特性に応じた防災体制
- ⑧想定外の災害時の対策

なお、今回策定した地域防災計画は、合併により市域が拡大したことから、次の点が特徴としてあげられます。

災害想定

市には、その地勢から河川氾らんや土砂災害の可能性を有する土地があるほか、市直下あるいは周辺に活断層が確認されているため、地震による災害が発生する可能性があります。

河川氾らんでは、特に姉川・高時川が決壊するときは、市の中心部一帯が浸水する可能性があり、その被害は甚大となります。

また、国や県の調査では、琵琶湖や余呉川、天野川の浸水想定区域が公表されています。

一方、市直下あるいは周辺には、湖北山地断層帯、柳ヶ瀬・関ヶ原断層帯、琵琶湖西岸断層帯、鈴鹿西縁断層帯、野坂断層帯、揖斐川断層帯、集福寺断層帯などの活断層帯があることが確認されています。

活断層とは、将来的に活動すると推定されている断層のことです。地震は断層が活動して岩盤がずれるときに生じるものであり、このうち、市に最も大きな影響を与えると考えられる地震は、柳ヶ瀬・関ヶ原断層帯に起因するもので、最悪の条件下でこの地震が発生した場合、地震の規

TOPICS

模はマグニチュード8・2となり、ほとんどの低地では震度6強程度、一部地域では震度7の揺れが生じ、早朝であれば約一千人の死者が発生することが想定されています。

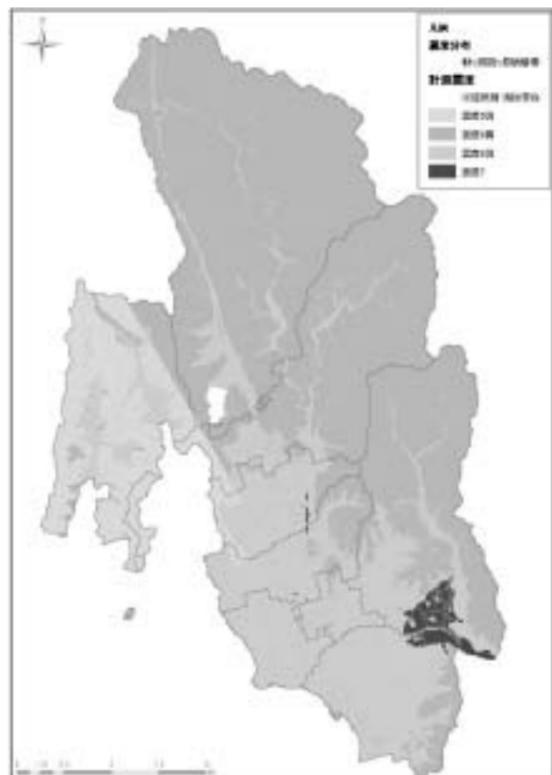
模はマグニチュード8・2となり、ほとんどの低地では震度6強程度、一部地域では震度7の揺れが生じ、早朝であれば約一千人の死者が発生することが想定されています。

■想定地震のパラメータ

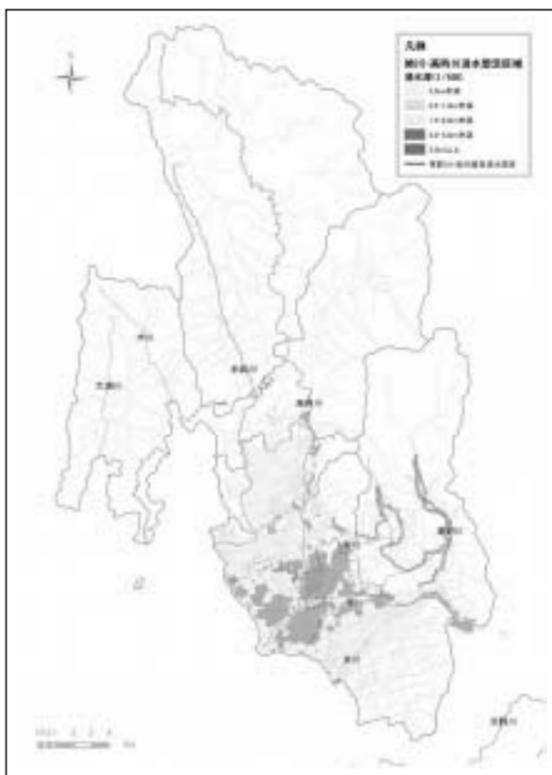
項目	柳ヶ瀬・関ヶ原断層帯
マグニチュード	8.2
断層上端深さ	0.0km
走向	330°
傾斜角	85°
長さ	100.0km
幅	15.0km
震源緯度	35° 20' N
震源経度	136° 26' E

■想定される地震被害

項目		柳ヶ瀬・関ヶ原断層帯地震	
建物被害	全壊棟数（棟）	13,393	
人的被害	死者（人）	早朝 5時	1,028
		昼間15時	685
		夕刻18時	846
	重傷者（人）	早朝 5時	854
		昼間15時	584
		夕刻18時	721
負傷者（人）		16,820	
避難者（人）		16,176	



想定震度（柳ヶ瀬・関ヶ原断層帯地震）



浸水想定区域図（姉川・高時川）